

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03715

研究課題名(和文)労働と心の健康の経済分析

研究課題名(英文)Economic analysis of work and mental health

研究代表者

黒田 祥子 (Sachiko, Kuroda)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：50447588

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は多くの人が健康で生き生きと働ける社会の実現に向けて、労働と健康との関係についてのエビデンスを提示することを目的に実施したものである。主に3つの視点から研究を実施した。第一は、職場における人間関係が労働者のメンタルヘルスに与える影響について検証した。第二は、なぜ人々はメンタルヘルスを毀損するほど長時間労働をしてしまうのかについて、行動経済学の視点を取り込み、同一個人を追跡調査したパネルデータを用いて解析した。第三に、健康と生産性との関係について、労働経済学や関連分野の先行研究を広くサーベイする展望論文を執筆し、健康と生産性に関する研究を行う上で今後どのような視点が必要かを整理した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で行った第一の分析から得られた知見は、パワーハラスメントが社会問題化している状況に対し、定量的なエビデンスを提供したものである。第二の分析は、労働者が自身の健康を過信して無理をしてしまい、長時間労働になりやすい実態を明らかにした。これらの分析からは、一連の働き方改革関連法の方向性や政策的意義を裏付ける知見が得られた。また、昨今では「健康経営」(企業が従業員の健康推進を行うことを通じて生産性を高めていくことを意図した経営)が注目されている。第三の研究は、健康経営についてどのような視点で考えていくべきかを整理しており、企業が今後、健康経営を推進していくうえで有用な知見を提供している。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted with the aim of providing evidence of the relationship between work and health in order to realize a society in which many people can work healthy and lively. Research was conducted mainly from three perspectives. First, using longitudinal data, this study examined the effects of managers' communication with staff at the workplace on the mental health of workers. Second, using the same longitudinal data, this study analyzed the reason why people overwork at the risk of impairing mental health by incorporating the viewpoint of behavioral economics. Third, this study wrote a prospective paper that widely surveys prior studies in labor economics and related research on health and productivity management.

研究分野：労働経済学

キーワード：労働時間 過重労働 メンタルヘルス ハラスメント 健康経営

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入ってからわが国では、長時間労働や過労死の増加、また過労との関係性が深いとされる精神疾患患者の増加が社会問題化している。こうした問題を受け、応募者は過去に3つの研究資金を得て、日本人の労働時間に焦点を充てた研究を行ってきた。平成19~21年度の研究(若手研究B「労働市場の世代間分析」, 課題番号19730167)では、時間配分に関する精緻な政府統計の個票データ(『社会生活基本調査』)を用い、現代の日本人労働者の実態把握に重点を置いた研究を行い、1970年以降のわが国では平日の労働時間が長時間化する傾向にあり、その代わりに睡眠時間が趨勢的に減少している実態を明らかにした。これらのファクトファインディングを受け、平成22~24年度の研究(若手研究B「時間の経済分析」, 課題番号22730188)では、長時間労働の規定要因を特定化すべく、時間外規制の撤廃(ホワイトカラー・エグゼンプションの導入)が労働時間に及ぼす影響、不況時に時間調整により雇用保護を行うことを目的に企業主導で平時の残業時間を長めにさせておく「残業時間の糊代説」の検証、就業の深夜化の検証等、日本人の長時間労働の規定要因や政策評価分析を多角的に検証した。続く平成25~27年度の研究(基盤研究C「時間配分と健康状態の経済分析」, 課題番号25380372)では、労働時間および、それ以外の時間配分の規定要因を検証するとともに、長時間労働が常態化している環境下における労働供給のピア効果の分析、長時間労働と心の健康との因果関係、労働者の健康問題が企業の生産性に多大な負の影響を与えていること等を定量的に明らかにし、メンタルヘルスの毀損は個人の問題ではなく、社会の効率性を低下させている可能性を指摘した。これらの一連の研究は、査読審査を経て既に複数の国内外の学術ジャーナルに採択・掲載されたほか、研究内容を国民に広く発信することを目的としてまとめた著書(『労働時間の経済分析』, 日本経済新聞社、2014年<山本勲氏との共著>)は第57回日経・経済図書文化賞および、第38回労働関係図書・論文優秀賞を受賞するなど、一定の評価を得た。

本研究は、研究をさらに発展させ、日本国民の働き方と健康との関連性を明らかにすることを目的とした開始したものである。

2. 研究の目的

日本人の長時間労働の規定要因や、現代の働き方がもたらす健康や生産性への影響に焦点を充てたこれまでの研究を発展させ、本研究では労働と健康に関する研究をさらに深く掘り下げるべく、労働時間・働き方・職場環境・職場の人間関係等が労働者の健康、特に心の健康(メンタルヘルス)に与える影響を明らかにすることを目的としたものである。

3. 研究の方法

国内外でこれまでに明らかにされてきたことや、海外の先行研究では明らかにされてきたものの、わが国では必ずしも実態が明らかとなっていないことなどを、分野横断的に広くサーベイし、整理することから開始した。労働者の働き方に関する研究はこれまでの労働経済学分野を中心に多くの研究がなされてきたものの、労働と健康を結び付けた分析はこれまでの経済学の研究では必ずしも多くは蓄積されてきていない。そこで、本研究開始の初期段階では、経済学以外の分野(社会疫学、産業保健、産業心理学、精神医学、健康社会学等)で得られている知見を広くサーベイし、労働経済学で得られてきた知見と補完が可能な領域の特定化を行った。また、最近の社会疫学の分野では、所得水準のみならず、所得格差が人々の主観的な健康度や幸福度と密接に関係していることが明らかにされてきているが、これは心理学と経済学とが融合した行動経済学の分野で蓄積が進んでいる一連の研究とも親和性が高いと考えられたことから、同分野の最先端の研究の整理を行った。

実証分析については、経済産業研究所において複数年にわたる企業と労働者のマッチ・パネルデータを構築した。同データには、働き方に関する様々な設問項目を盛り込み、労働時間だけでなく、直属の上司との関係性や、産業保健分野から援用したプレゼンティイズムの尺度、職場環境や仕事の質に関する詳細な情報を経年的に収集した。実証研究では、主にこのパネルデータを用いた分析を実施したほか、政府統計の個票データ(『社会生活基本調査』(総務省)等)を申請・利用することで、働き方改革の機運が徐々に高まる中で、日本の労働者の働き方が、実際に政策が意図した方向に進んでいるのかといった実態把握も並行して行いながら、分析を進めた。

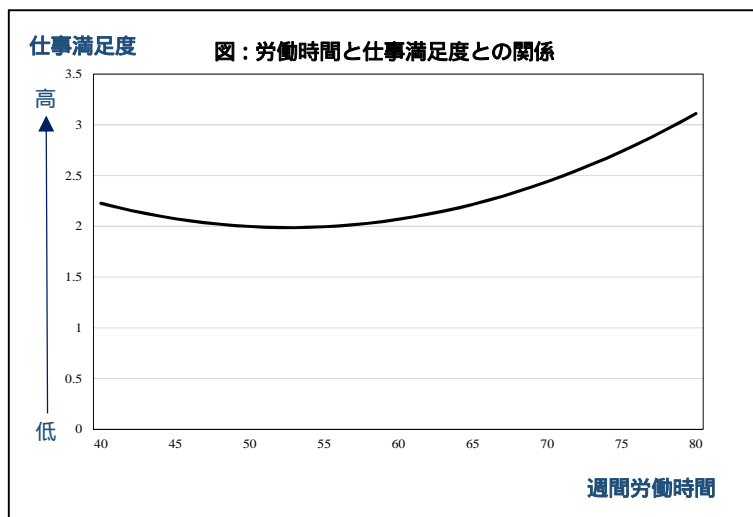
4. 研究成果

本研究では、主に3つの視点から研究を実施した。第一は、職場における人間関係が労働者のメンタルヘルスに与える影響について検証した分析である。同一個人を複数年にわたり追跡調査したデータを分析した結果、性格特性や元々のメンタルのタフさといった個人に固有の要因や、労働時間・仕事の負荷といった業務に関連する情報を統計的にコントロールしたとしても、管理能力やコミュニケーション能力が劣る上司の下で働いている部下のメンタルヘルスは、それらが優れた上司の下で働いている部下に比べて、統計的に有意に悪い傾向にあることが明らかとなった。また、上司とのコミュニケーションの良し悪しは、部下のメンタルヘルスだけでなく、部下の主観的な生産性(プレゼンティイズム)や離職の意向にも影響を及ぼすことが示唆された。2020年6月には、改正労働施策総合推進法が施行となり、パワーハラスメント防止のために事業主が講じるべき措置についての規定が盛り込まれるなど、職場におけるハラスメントへの関心は急速に高まってきている。本分析で得られた知見は、こうした社会問題に対し、定量

的なエビデンスを提供したものと位置づけられる。当該論文（Kuroda、 Sachiko and Isamu Yamamoto、 “Good boss、 bad boss、 workers’ mental health and productivity: Evidence from Japan”）は、査読を経て、2018年に Japan and the World Economy に採択された。

第二は、なぜ人々はメンタルヘルスを毀損するほど長時間労働をしてしまうのかについて、行動経済学の視点を取り込み、同一個人を追跡調査したパネルデータを用いて解析した論文である。具体的には、従業員を複数年にわたり追跡調査したパネルデータを用いて、労働時間の長さ

と仕事満足度、メンタルヘルスとがどのような関係にあるかを検証した。分析の結果、労働時間が長くなるほど、労働者の仕事満足度が増していくような関係が見出されることが分かった。具体的には、その他の条件を一定とした場合、週当たりの労働時間が 55 時間を超える辺りから、仕事満足度が上昇していくことが観察された。図は、推計で得られた係数を元にシミュレーションをした結果を示している。一方で、メンタルヘルスと労働時間との関係については、仕事満足度



度とどのような関係性は見いだせず、労働時間が長くなるほどに悪化する傾向があることも分かった。これらの結果は、仕事満足度とメンタルヘルスは必ずしも一対一の関係ではないこと、労働者が自身の健康を過信して無理をしてしまい、長時間労働になりやすい傾向にあること、結果として過労がメンタルヘルスを毀損させることにつながる可能性などを示唆している。この論文も査読を経て、2018年に Journal of Happiness Studies(Kuroda、 Sachiko and Isamu Yamamoto、 “Why Do People Overwork at the Risk of Impairing Mental Health?”) に掲載された。

第三に、健康と生産性との関係について、労働経済学や関連分野の先行研究を広くサーベイする展望論文を執筆した（黒田祥子、「健康資本投資と生産性」『日本労働研究雑誌』No.695、2018年）。高齢化が加速する中、日本では、国民一人一人が生涯を通じて働くことができる健康状態をいかに維持していけるかに大きな関心が集まっており、政府も労働者の健康増進のための様々な法整備や企業による健康経営の推進に力を入れている。こうした背景には、労働者の健康増進は、増大する医療費の抑制だけでなく、生産性の向上にもつながるという発想がある。健康は、人間の幸福を規定する要素として不可欠であるが、健康になるとなぜ生産性が上がるのか。健康を維持するための投資（健康資本投資）の費用は誰が負担すべきか。健康増進の費用対効果はどの程度あるのか。健康に関心が集まっている中、健康と生産性との関係を労働経済学の観点から体系的に検討したものは必ずしも多くない。そこで本論文では、経済学分野を中心に関連分野も含めて既存研究を分野横断的にサーベイし、先行研究では、「健康」と「生産性」をどのような尺度で捉えてきたかを概観した。さらに、人的資本としての健康資本投資について経済学の捉え方を簡単に整理したうえで、健康と生産性との関係について、マクロ・個人・企業レベルのそれぞれの視点から既存の実証研究をレビューし、健康資本投資のコストは誰が負担すべきかについて、これまでの研究の蓄積を整理した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Sachiko Kuroda and Isamu Yamamoto	4. 巻 48
2. 論文標題 Good boss, bad boss, workers' mental health and productivity: Evidence from Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 106-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1016/j.japwor.2018.08.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sachiko Kuroda and Isamu Yamamoto	4. 巻 20
2. 論文標題 Why Do People Overwork at the Risk of Impairing Mental Health?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Happiness Studies	6. 最初と最後の頁 1519-1538
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1007/s10902-018-0008-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 黒田祥子	4. 巻 695
2. 論文標題 健康資本投資と生産性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 30-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 黒田祥子・山本勲	4. 巻 2017(5)
2. 論文標題 働きすぎの経済学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 安全と健康	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田祥子・山本勲	4. 巻 2017(8)
2. 論文標題 労働時間とメンタルヘルスの関係性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 安全と健康	6. 最初と最後の頁 28-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田祥子	4. 巻 22(3)
2. 論文標題 過重労働と労働生産性～経済学の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 健康開発	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田祥子	4. 巻 679
2. 論文標題 長時間労働と健康、労働生産性との関係	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 18-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Sachiko Kuroda
2. 発表標題 Impact of the Work-Style Reform on Overtime Hours and Self-Training Time: Evidence Using Japanese Time Use Data
3. 学会等名 International Association of Time-Use Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田祥子
2. 発表標題 Why Do People Overwork at the Risk of Impairing Mental Health?
3. 学会等名 the 39th International Association of Time-use Research (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黒田祥子
2. 発表標題 Does Experience of Wage Cuts Enhance Firm-level Wage Flexibility? Evidence from panel data analysis of Japanese firms
3. 学会等名 14th Western Economic Association International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 黒田祥子・山本勲(玄田有史編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか(分担執筆:第5章)	

1. 著者名 黒田祥子・山本勲(日本経済新聞社編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本経済新聞出版社	5. 総ページ数 272
3. 書名 やさしい行動経済学(分担執筆:第11章)	

1. 著者名 黒田祥子・山本勲（島津明人編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 254
3. 書名 産業保健心理学（分担執筆：第13章）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

黒田祥子研究室HP http://www.f.waseda.jp/s-kuroda/ja/index.html Sachiko Kuroda's website http://www.f.waseda.jp/s-kuroda/index.html

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考